

# 地学協働

02

2022年11月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

## 1 北海道地学協働アワード2022の開催について

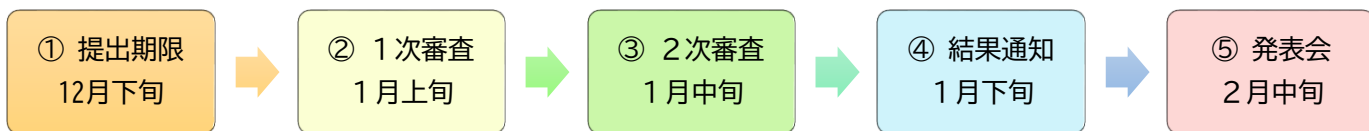
道教委では、地域と連携・協働して優れた学習活動に取り組み、内容が他の模範と認められる学校に対して、その功績をたたえとともに、全道における地学協働のより一層の推進と活性化を図るため、「北海道地学協働アワード2022」開催いたします。

対象は、公立の高等学校、中等教育学校（後期課程）、特別支援学校（高等部）のうち、総合的な探究の時間や各教科・領域等の授業において、地域の人材や企業、関係機関等と連携して、地域課題の解決を図り、地域の創生につなげていくことを目指した学習活動を進めている学校となっています。

応募方法は、「エントリーシート」の提出による推薦とし、市町村教育委員会や教育局による他薦、学校による自薦のどちらでも構いません。

道教委関係課による1次審査、北海道地学協働アドバイザーや北海道地学協働推進会議構成員等による2次審査を経て、グランプリ、準グランプリ、特別賞等を決定します。

※「アワード」とは、コンテストのように審査や選考を経て選ばれる賞のこと



また、令和5年2月中旬にオンラインで開催する「地学協働フォーラム」のプログラムの1つとして、「北海道地学協働アワード2022 発表会」を実施し、本アワードの審査結果を発表するとともに、上位入賞校に取組や成果について発表してもらう機会を設けています。

詳しくは、令和4年11月21日付け教社第1657号で、教育局、道立学校、市町村教育委員会にお送りしています「『北海道地学協働アワード2022』について」をご覧ください。（道教委HPにも掲載しております。）

多くの学校のエントリーをお待ちしています。



道教委が令和3年度より実施している「北海道CLASSプロジェクト」は、高校と地域が協働する体制構築をとおして、次世代を担う高校生の学びの充実と、地域住民が参画することによる地域創生を図るものです。

その要となるのが、両者をつなぐ「地域コーディネーター(Co)」の存在です。本プロジェクトでは、4校の研究指定校(推進校)に地域コーディネーターを配置しています。本業は美容師、商工会役員、地方議会議員、ジオパーク関係者とバラエティに富んでおり、それぞれの持ち味を発揮して活躍しています！



(帯広三条高・長岡Co)



(当別高・松岡Co)



(白老東高・佐藤Co)



(上富良野高・中村Co)



(上富良野高・国枝Co)

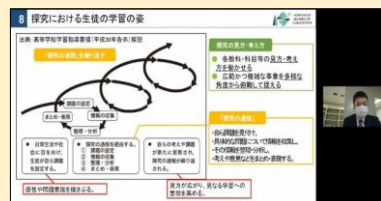
地域コーディネーターの大きな役割は「学校と地域をつなぐ」こと。ただ、一言で「つなぐ」と言っても、そのために知る必要のあることはたくさんあります。互いの活動を交流することも含め、道教委では「地域コーディネーターミーティング」を定期的を開催するなどして、活動を支援しています。

今回は、10月19日に行われた地域コーディネーターミーティングの様子をお伝えします。

## ■ 第2回地域コーディネーターミーティングの概要(令和4年10月19日)

### ① 講義「総合的な探究の時間を軸とした教育課程の編成について」

学校に配置される地域コーディネーターは、学校の教育課程について理解する必要があります。そこで、高校教育課の岩館指導主事が、総合的な探究の時間を軸とした教育課程の編成について講義を行いました。



### ② 事例紹介「学校として地域コーディネーターに望むこと」

学校が求める「コーディネーターの役割」や「コーディネーターによる学習活動の広がり」の実態を知るため、下川商業高等学校の遠藤教諭と本間コーディネーターに事例を紹介していただきました。



### ③ 情報交流

今後の活動をさらに充実させるため、各校での取組や今後の予定について情報交換をしました。他校の地域コーディネーターの動き方や取組は、それぞれにとって有益な情報となりました。



◆ 地域と学校の連携の必要性が高まる昨今において、地域コーディネーターの重要性もますます高まっています。道内でも、自治体独自の財源を確保して地域コーディネーターを配置したり、自治体職員が学校に勤務して地域とのコーディネート機能を担ったりする事例が増えてきています。

◆ 道教委としても、地学協働を進めるにあたり、地域コーディネーターが要となると考えていることから、地域コーディネーターミーティングの対象を研究指定校以外にも広げ、道内の地域コーディネーター同士が情報交流できる場を提供するよう努めています。

### 3 地域と学校の連携推進協議会（道東）の報告

道教委は、子どもたちの成長を支えていくために、「コミュニティ・スクール(CS)」の仕組みを活用し、地域と学校とが相互に連携・協働しながら一体となって「地域学校協働活動」を充実させる方法等について理解を深めることを目的に、地域と学校の連携推進協議会を全道4つのブロックで実施しました。

今回は、令和4年8月31日に道東ブロックで実施した内容を紹介します。

#### ■ 実践発表



【宝輪CSコーディネーター】

#### 「更別村におけるコミュニティ・スクールとみんなの学校応援団（地域学校協働活動）」

更別村教育委員会CSコーディネーター 宝輪 祐子 氏

更別村におけるコミュニティ・スクールの特徴や「みんなの学校応援団」の立ち上げの経緯、CSコーディネーターとして、学校、地域、家庭が目指す子ども像やビジョンの共有などを行った上で「更別村コミュニティ・スクールアクションプラン」を策定した取組など、コーディネーターの重要な役割について発表していただきました。



【森統括コーディネーター】

#### 「地域コーディネーターの役割と重要性」

釧路市教育委員会統括コーディネーター 森 敏 隆 氏

コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的推進※のためには、学校運営協議会において、地域と学校が協働してどのような取組を行っていくのか、効果的なアクションを考えるための熟議となるよう、地域と学校が地域課題やビジョンをしっかりと共有することが重要であることについて、発表していただきました。

※ 広報誌「地学協働」01（R4.10月発行）の1ページの図を参照



【藤沼教頭】

#### 「道立高等学校における学校運営協議会の取組」

北海道別海高等学校教頭 藤 沼 悟 氏

学校運営協議会の熟議のテーマを焦点化することで、議論が深まり、教員や地域住民の当事者意識が醸成された事例や、「中高連携部会」「農業教育部会」など学校の特色を活かした部会を設けることで、委員と教員が協働して議論を具現化させ、それぞれに役割を持って地域のよさを活かした教育活動を展開した事例などについて発表していただきました。

#### ■ 協議「学校運営協議会を充実させるためには」



【協議の様子】

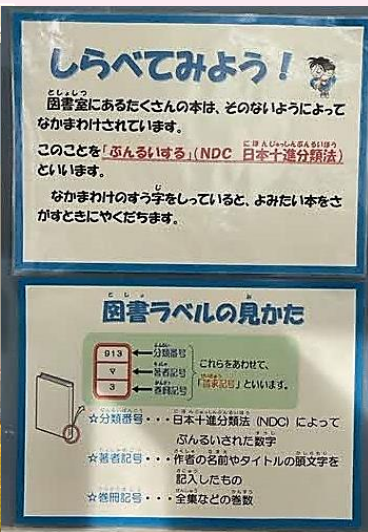
各管内の会場において、学校運営協議会の取組を充実させるための具体的な方策について実践発表に基づいて協議を行いました。

目指す子ども像や課題・ビジョンの共有を図る熟議の重要性や、コーディネーターの役割の重要性、教員や委員の当事者意識を向上させることの必要性とその方策などについて議論され、自身が所属する学校運営協議会に活かすことのできるアイデアを参加者同士で共有していただきました。

# ○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

当係では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関することについても担当しています。本コーナーでは、子どもの読書活動に関わる情報や、全道における好事例などをお伝えしていきます。

## 誰でも使いやすい学校図書館（東神楽町立東神楽小学校）



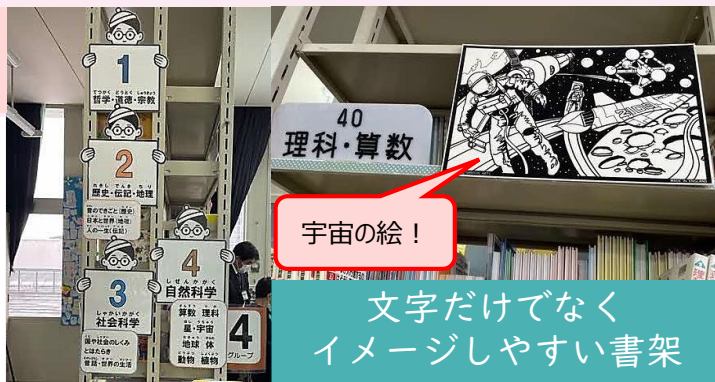
### ① 学校図書館の使い方を示す

日本の多くの図書館は、「日本十進分類法（NDC）」で分類され、配置されています。小学校のうちからそのルールを示し、図書館の使い方を学んでおくと、1年生でも、読みたい本や知りたい情報を自分で探し出すことができるようになります。

「知りたいことは自分で探し出せる」を体験する学校図書館

### ② どの書架に何の本があるかひと目でわかりやすい

東神楽小学校には、「図書協力員」（いわゆる学校司書）が配置されており、児童や教諭が使いやすい環境整備を進めています。書架の側面に大きく分類表示がされ、分類にふさわしい絵を掲示することで、どのような本が配架されているか、ひと目でわかります。



### ③ 各授業等の関連図書を集めたコーナー

東神楽小学校の学校図書館は、決して広い図書館ではありませんが、「アイヌ」「しごと」「秋の本」など、その時々で児童に手に取って欲しい本の棚が目立つように配置されています。今どんな本がオススメなのかは、各学級担任と詳細に打ち合わせ、効果的な配置をすることで、学校図書館の利活用の促進につながる工夫がされています。

関連図書が手に取りやすい

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益財団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>